

第三回 留学便り

2011年3月28日

欧米第一課程 英語専攻3年 PRSP 班

澤田 麻美

留学先： Sprott-Shaw Community College

履修内容： FITT - International Trade Program -

都市： Vancouver, CANADA

期間： 2010年9月27日～2011年4月1日



帰国まであと1週間を切り、ついにこの留学便りも最終回を迎えました。前回の留学便りを提出してからの約3ヵ月間は、平日の勉強と週末のスノーボードが生活の中心であり、月に1・2回はクラスメイトの Farewell party に参加。試験やレポートの締め切りに焦りつつも、楽しむ事も忘れず、程よい忙しさの中で日々を過ごしていました。過去2回の留学便りと同様に、今回もまずは履修している college のプログラム説明と科目紹介を行い、最後に半年間の留学全体についての感想を残したいと思います。

はじめに、FITT プログラム全体の特徴については、前回紹介した通りなので、同じものをここに引用しておきます。

【FITT とは】

Forum for International Trade Training の略称であり、今日のグローバル市場における実践的スキルを各個人に習得させることを目的として、カナダの貿易業界と政府関係者によって設立された NGO 団体です。(FITT ホームページより) 私の受講しているプログラムでは FITT の Diploma 取得に必須の 8 科目と Sprott-Shaw Community College が独自に提供する 2 科目の合計 10 科目を約半年間で終わらせます。各種留学代理店などは、コース修了後の就職率の高さを推していますが、FITT の日本での知名度はまだまだ低いので、就活等でアピールしたい場合は面接時にこのプログラム内容をしっかりと説明できるかどうか重要となってくると思います。

(澤田『第二回留学便り』より)

【授業内容】(2010年1月後半～2011年3月末)

この期間に受講した科目は以下の通りです。

- ✚ International Market Entry and Distribution
- ✚ International Marketing
- ✚ Legal Aspects of International Trade
- ✚ Fundamentals of Business Communications

International Market Entry and Distribution および International Marketing は、科目の関連性の高さから同時進行で授業が行われました。3時間授業の前半90分で前者の教科書を扱い、残りの90分で後者の教科書の内容を進める、といった具合です。当然、試験やプロジェクト提出はそれぞれについて行わなければなりません。具体的な内容としては、いくつかある代表的な市場参入方法や企業提携の種類についてそれぞれのメリット・デメリットを中心に学び、少しだけ E-commerce にも触れています。これらはどれも国際貿易に限った話題ではないのですが、International Marketing のプロジェクト課題では海外市場への参入が前提のため、ターゲット市場における法律・政治・経済・文化などの側面について最低限の研究が求められます。

Legal Aspects of International Trade では、Contract Law のモデル法として使用されている The Vienna Sales Convention の CISG (国境を越えた商取引の際に、売り手・買い手の義務や契約違反の際の法的措置を規定するもの。契約に適用される法律が特に明記されていない場合、加盟国同士の商取引では自動的に適用される。) や、特にアメリカとカナダの反トラスト法、知的財産法などを扱いました。FITT プログラムの中でも一番分厚い教科書で内容も他の科目よりは専門的なので、授業について行くのが少し大変ではありましたが、その分理解する楽しさを一番実感できた科目でした。現在はこの科目の試験結果を待ちつつ、最後の Fundamentals of Business Communications を受講している所です。

【留学を終えて】

6カ月間の留学生活で得たものはいろいろとありますが、やはり FITT プログラムを通して、ビジネス全般や貿易実務に関する基礎部分を学んだことは大きな収穫の一つです。必ずしも正解が存在しないビジネスの世界で、新たな事業をスタートする際にどのような事を視野に入れなければならないのかという大きなトピックから、国際貿易で避けては通れない運搬契約の形式などの細かいトピックまで、実務経験がない中でも少しずつ理解していくことができました。また、具体的に知ることによって今後貿易に携わりたいという思いが強くなったので、今年秋からの就職活動を前に良い刺激になりました。

ただ、英語力に関してはまだまだ課題が残ります。リスニング・スピーキングともに留学前と比べれば当然ある程度向上しましたが、話し相手の出身地や話すスピードによっては一度で聞き取れないこともあり、ニュースや新聞では未だに馴染みのない単語に出くわすことが多いです。原因としては、個人的に語彙力強化のための学習を怠った事と、アジア人と関わる機会が圧倒的に多くアジア人訛りの英語に慣れていたことなどが挙げられると思います。また、移民の多いバンクーバーが訛りの強い英語に寛容なことも、いわゆる「正しい」発音を磨く機会が減ってしまった一つの原因といえるかもしれません。

今後の私にできる事は、この半年間で得たものを失わず、さらに高める努力をすること。今回の留学の良し悪しを現段階で決めつけてしまうのではなく、これをあくまできっかけと捉えて、5年後、10年後の自分が後悔しないよう努力を続けていきます。



(English Bay から眺める夕焼け 2011年3月 筆者撮影)